

第3回堺市下水道ビジョン懇話会（議事概要）

- 1 **開催日** 平成28年2月3日（水）午後2時から午後3時30分
- 2 **場 所** 堺市上下水道局本庁舎4階研修室
- 3 **出席者** ○構成員（敬称略 順不同）
尾崎平 貫上佳則 中川澄 林由佳
○上下水道局（所属順）
上下水道事業管理者、上下水道局管理監兼局次長、
上下水道局理事兼経営管理部長、営業部長、上水道部長、下水道部長ほか
○その他 傍聴者 5人、報道関係者 2人

4 議題概要

議題1 堺市下水道ビジョン（改定版）素案について

資料1「堺市下水道ビジョン（改定版）について」について事務局説明

堺市下水道ビジョン（改定版）について

（貫上座長）

資料1をもって下水道ビジョンの概要版とするのか。

（事務局）

資料1は本日の懇話会での説明用の資料であり、概要版については再度、記載する内容を検討した上で作成する。

前期5年間の成果と課題

（貫上座長）

この表は資料2のⅡ-16から18の内容を組み合わせたものになっているが、概要版を作成する際は対応関係を明確に表しておくこと。

戦略

（林構成員）

前回の懇話会で議論になった戦略の表現について、懇話会での意見を整理して反映されており、良くなったと思う。

（尾崎構成員）

戦略②の「あらゆる関係者」という表現について、資料2の中でも使われている「多様な」という表現を使用の方が、個人的には適していると思う。

(事務局)

戦略として、心に残る言葉になるように再度検討する。

基本理念、使命、将来像及び施策体系

(中川構成員)

資料2のⅢ-2にも使われているが、基本理念や使命、将来像との関係性について表した図が前回の懇話会時に比べて分かりやすくなった。

後期5年間の取組概要

(貫上座長)

施設・管きよのアセットマネジメントにおける5年後の姿について、「目標耐用年数に対する設備の健全度」が平成27年度末の見込み値に比べて、平成32年度末の目標値が下がっているのはなぜか。

(事務局)

指標値を算出するにあたって、分母の対象となる施設が増加する一方で、限られた予算の中で健全度と高めていくことは難しく、現状の70%程度を維持していくことを目標としたい、という趣旨で平成32年度末の目標値は69.2%と設定している。

(貫上座長)

このような目標の指標値というようなものは、順次良くなるものだとみてしまいがちである。資料2のⅣ-25の中でも、途中経過の値も記載されているが、上がったたり下がったりしているため、注釈を記載してはどうか。

(尾崎構成員)

「しんらいを築く堺の下水道への挑戦」の項目については、資料2のⅣ-42に対応するよう3つの挑戦があげられているのに対し、「主な事業取組」の項目については、Ⅳ-40, 41にある一部の事業取組のみをあげている。概要版を作成する際は、「主な事業取組」以外の事業取組についての記載も検討してはどうか。

(貫上座長)

5年後の姿の指標において、一部追加指標と修正指標がある。追加指標については、改定前の目標は未設定で当然であるが、修正指標については、考え方等を修正しているということで、改定前と数字が同じでも意味合いが異なってくると思う。修正指標については、改定前後で同列に並べるのではなく、何か表記を検討してはどうか。

堺市下水道ビジョン（改定版）素案

（尾崎構成員）

Ⅱ－１７で前期の成果として達成率が記載されているが、１００％に達していない項目もある。特に「１９９０（Ｈ２）年度比下水道事業から排出される温室効果ガス削減率」については達成率が－９０％となっており、その原因として、東日本大震災の影響でＣＯ₂排出係数が変化したなどの、当初のビジョンを策定したときと現在の社会状況の変化がある。指標と関連を付けて、社会状況の変化を要約して記載してはどうか。また、社会状況の変化については、想定していたものと、していなかったものを分けて記載するとわかりやすいのではないかと思う。

（事務局）

わかりやすいように当初のビジョン策定時からの社会状況の変化をまとめて記載する。

（林構成員）

Ⅳ－２７の表で収納率の政令市平均が「－」になっているのはなぜか。

（事務局）

算定手法が各都市で異なり、一律で比較することができないため「－」と表している。

（貫上座長）

Ⅳ－８の中のイメージ図にある管きよの耐震化のイメージについて、土の中のイメージ図であることが市民に伝わりにくいように思う。下水道の関係者以外が見ることも意識した上で修正すること。

（林構成員）

累積欠損金について、現在の経済情勢の中で、当初予定よりは遅れる形ではあるが、平成３２年度には解消できるとされている。ビジョンの遂行に向けて上水道も含めて職員一丸となり、平成３２年度に累積欠損金が解消できるように取り組んでほしい。

（事務局）

あらゆる収入の確保と支出の削減を行うことで、純利益の５年間の確保、及び平成３２年度における累積欠損金の解消ができる財政の見通しができたため、ビジョンに基づいて取り組んでいく。

議題2 その他

資料3「社会資本整備総合交付金について」について事務局説明

(事務局)

下水道事業を実施するにあたって、国から交付金を受けて事業を進めている。その交付金を受けるために社会資本整備計画を策定し、国に提出している。社会資本整備計画は、計画終了時に事後評価を行う必要がある。

現在の社会資本整備計画は、下水道ビジョンの前期アクションプログラムと整合を図り、下水道ビジョンの中から切り出したものを含め、社会資本整備計画として提出している。

今年度は、社会資本整備計画の最終年度のため、事後評価を行う必要がある。事後評価の実施にあたっては、評価の透明性、客観性、公正さを確保するため、学識経験者等の第三者の意見を求めることができるとされている。事後評価について、本懇話会で議論いただき、事後評価書の実施体制に、堺市下水道ビジョン懇話会において実施した旨を記載させていただくことをご了承いただきたい。

(貫上座長)

資料3の内容については、この懇話会が責任を持って、このような形で評価をしたという位置づけをする必要があるという解釈で間違いないか。

(事務局)

おっしゃる通りの解釈で間違いない。この場では時間が限られてしまうため、後日に改めて確認をさせていただきたい。

(尾崎構成員)

計画の成果目標とされている浸水対策実施率の中で平成27年度末見込値として40.9%とされているが、ビジョンの説明では浸水対策を完了した地区は8地区とされていた。22地区に対して8地区では40.9%にならないことについて、この数値の根拠を説明して頂きたい。

(事務局)

40.9%は浸水対策を完了した地区を9地区として計算した数値であり、最近1地区の完成の見込みが遅れ、浸水対策を完了する地区は8地区となった。浸水対策実施率は8地区で計算した36.4%に修正する。

(尾崎構成員)

計画の成果目標とされている経年変化率について、最終目標値に至らなかった原因を説明して頂きたい。

(事務局)

予定通り更新できなかつたことが原因である。この指標では値が低い方が良く、更新できていたら97%になるはずが、更新できていなかったため111.7%となった。

(尾崎構成員)

社会資本整備計画に事業費について、当初予定していた事業費より低い費用で対応しているのはなぜか。

(事務局)

「堺市公共下水道事業計画」は汚水を主体とした通常事業であり、こちらはほぼ予定通りに進めることができ、事業費的にも当初の見込値に近い値となった。

「堺市公共下水道事業計画（防災・安全）」について、当初の見込値と比べて事業費が減少している原因は、浸水対策と建築施設の耐震対策に関する事業着手が遅れているからである。

構成員挨拶

(中川構成員)

今回の見直しについて、東日本大震災や笹子トンネル崩落事故等による社会情勢の変化という明確なきっかけがあり、それを踏まえて何をどうするかという明確な方向性が打ち出されたことが非常に良かったと思います。また、その明確な方向性について1回目と2回目の懇話会を経て、市民にもわかりやすい形でまとめることができ、非常に有意義な懇話会でした。

(林構成員)

今回の懇話会の中で、当初のビジョン策定時の懇話会以上に事業管理者の熱い想いを感ずることができ、市民目線や専門家目線など色々な目線から見た中で、本音を交えた話ができたとすることが非常に有意義でした。

ビジョンは策定して終わりではなく、今後モニタリングをしていくことが重要ですので、引き続き平成32年まで取り組んでほしいと思います。

(尾崎構成員)

今回は見直しということで、指標の見直しや今後の方向性について議論できたのが、非常に有意義でした。林構成員の話にもあった通り、このビジョンを基にいかに関実に具現化するかが課題であると思います。

最近“浸水”や“リスク”にかかわる中で「最大限想定し得る」等の表現が見かけられ、その表現をどのように定義し、実際に計画に反映するかが非常に悩ましい問題だと思っています。ビジョンの中でも重点地区が2地区増えたという表現がありますが、今後気候変動の影響やスーパー台風のことなども考えると、重点地区という概念ではさらに増加するのではないかと思います。そのような現状も踏まえて、実際に今後どのように取り組んでいくのかということを考える必要もあり、危機管理や施設の統廃合のことにも踏み込んでビジョンを策定できたのは非常に良かったと思います。

危機管理などでは、局の中だけにとどまらず堺市全庁や大阪府、大阪市との間で連携する必要も出てきます。たとえばBCPの計画について、堺市に地下街はありませんが、地下鉄御堂筋線が大阪市から繋がっていることを考えると、津波の被害が起こった時に地下鉄を伝わって下水が流れてくるといったことも考えられます。大阪市が総務省のプロジェクトの予算で計算をしていますが、津波による市内の長期浸水は、雨に対する内水だけの問題ではなく、下水による対応も考えられ、その対応については難しい問題があります。5年後にはそういったことを考慮に入れつつ、次の5年、10年を見据えたビジョンを作りたいと思います。

(貫上座長)

当初のビジョン策定時と同様に、今回も座長という形で役目をいただきまして、当初の懇話会の事も思い出しつつ、懐かしく感じておりました。進捗状況についても前期5年間の成果と課題から、やむを得ず計画通りに進まないところあるが、努力し、進めていることが分かり、嬉しく思いました。

このようなビジョンや計画は、他の役所では外部委託されて作られることが多いですが、堺市では5年前と同様に、職員が自ら策定することで、市民あるいは職員に対してどのような見せ方をする必要があるのかを身をもって体験できたと思います。その体験から、次の5年間は最終のアウトプットを考えて仕事することで、進捗状況が自ら判断できると思います。上司に伺いたてなければダメだという考えではなく、職員の1人1人がそれぞれの立場で現状を判断し、次どうすべきかを考えるということは、非常に良いことだと思います。

大変な作業であったと思いますが、計画を自らの手で策定することで得られるメリットは多く、他の所でもチャンスがあれば今後も続けていただきたいと思います。

今回で3回目の懇話会ということで、あともう少し個別で調整いただくことはあるのかとは思いますが、懇話会としてはこれで終わりとなります。最終的に、市民向けにわかりやすい、ビジョンの完成形と概要版を作ってください、実のあるものにしていただきたいと思います。

上下水道事業管理者挨拶

1 1月から3回にわたる懇話会の中で、委員の皆様におかれましては、本当に貴重なご意見、温かいご意見、叱咤激励ということで、本音のご意見いただきまして本当にありがとうございます。

私自身も昨年4月から管理者をさせていただいている中で、我々自身が熱い使命を持ってお客様にサービスを提供していくということが第一だと思っております。この懇話会の中で、職員各位、委員さんの意見を持ち寄り、魂を込めて作っていただいた中で、私自身、非常に勉強になりましたし、魂が入ったように思います。ビジョンを策定していく中で、職員に対しても私の考え方を理解していただけたように思っております。

総論といたしまして、改めて社会経済情勢の変化で岐路に立っているのは今だと改めて認識し、ご意見をいただいて策定したビジョンを効果的に今後5年間取り組んでいきたいと思っております。また、単年度ごとに改めて計画を策定し、それぞれの進捗管理をしていきたいと考えており、その際にはまた委員の皆様のご意見を頂きまして、次に活かしていけたらと思っております。

我々としては、下水道の機能の維持・進化ということと、経営基盤の安定・強化ということを意識して、お客様に信頼される上下水道を築いていきたいと思っております。特にその“築く”ということで、職員につきましては改めて技術の継承・向上も踏まえて、しっかりと自分たちの身につけていくということと、我々だけで事業を動かしているのではなく、皆さんの協力・連携によって事業は動いているということを改めて認識して、このビジョンを動かしていきたいと思っております。

一部につきましては確認事項としてまたお時間を頂きますが、今回をもちまして懇話会は終了ということで、今後とも本市上下水道事業につきまして、委員の皆様からのご助言いただければ幸いですと思っております。

最後になりましたが、委員の皆様のご協力に、重ねてお礼申し上げます。ありがとうございました。